

# 実は、彼等は私を狙っているのではない。彼らはあなたを 狙っている

私は邪魔になるだけだ

Greatchain

2020/11/20

篡奪（さんだつ）という言葉がある。難しい言葉だが、これを使えば都合がよい。正当な主権を奪って不法に自分のものにするという意味である。そして篡奪者という者が存在する。主流メディアと言われ、批判されながらも、今、かろうじて権威者を装っている。主流メディアとは、どういう者たちか？ それは篡奪者の手下として働く者で、権威を与えられながら、同時に幫間（男芸者）の役をする者たちである。私はずっと昔から、ジャーナリストに奮起を願う意味で、彼らは救世主となるか、人類の敵となるかどちらかだと言ってきた。今、多くのメディアが、真実を語るという本来の役目を捨てるどころか、公然と人類の敵の役目を選んでしまった。これは、全く取り返しがつかないと言われないが、彼ら自身にとっても、我々にとっても、これを取り戻すには恐ろしく困難な立場に立つことになった。なぜなら、誰にもプライドというものがあって、そう簡単に手の平を返すことはできないからである。ある新聞が取っているような、せめて判断の余裕を残しておけばよかった。

あるドイツ人ジャーナリストの話を、またここですることになる。この人は、あるとき本来の自分の仕事をするのをやめて、CIA から頼まれた原稿を、自分のもののように書き直すだけで、法外な報酬をもらうようになった。おまけにアメリカの名誉市民として、VIP 待遇さえ受けるようになった。しかし彼は、このウソで固めた自分の生き方に耐えられなくなり、ついにすべてを公然と告白し、その後しばらくして、死んだ。彼は自分の「魂を売る」ということが、どれだけ苦しいことかを、完全に知ったに違いない。

実は、この「魂を売る」ということに、ジャーナリストだけでなく、我々一般の命がかかっている。主権を篡奪する者とは誰のことか？ それは、我々の魂を奪って「もぬけの殻」にしようとした者たち——民主党やメディア、それを操るグローバリスト陰謀団のことである。そういう者たちが、今、投票機械まで製造し、詐欺によって選挙を乗っ取り、ランプやトランプ党の握る人民の主権を覆そうとした——が無残に失敗した。勝利に向っているのは、神と魂の一体性を信ずる者たちである。

篡奪者と被篡奪者（正統な主権者）の劇として有名なのは、シェークスピアの『テンペスト』だが、これを換骨奪胎して、その逆の関係をドラマにしようとしたのが、ロンドン・パラリンピックの出し物であった。これはNWOグローバリストが莫大なカネを掛けたと言われ、その本質は、神から主権を奪って、科学が世界を支配することになっている。その科学者の代表が、スティーブン・ホーキングであった。彼らの狙いは、当然ながら、**無神論科学**による世界制覇であり、彼らが意識する「インテリジェント・デザイン」の有神論科学ではない。（彼らの意図は、ホーキングの本に Grand Design という矛盾したタイトルがついていることからわかる。）この度の2020大統領選の投票詐欺も、同じ、神の支配を覆そうとする者たちの企みに違いなく、特にジョージ・ソロスからの出資が大きいと言われる。

アメリカを舞台とするこの選挙は、結局、何の争いか？ それは人間の魂の奪い合いである。戦闘的無神論者という者がいて、彼らは彼らなりに必死に戦っている。我々日本人も、この選挙には参加していると考えべきだが、その自覚はほとんどないように見える。奪われようとしているものを、戦って奪い返すという意識がなければ、それは戦わずして負けることである。「魂という屁のようなもの」などと言う無責任な者がいれば、私は「無神論・唯物論という屁のようなもの」と言い返している。我々を「もぬけの殻」にしようとする者たちは、それだけの計画をし、成算があつてのことである。彼らは恐るべく息の長い、長期計画を立てて戦っている。我々の公共放送では、「神」や「魂」は、絶対に口にすることはならない、恥ずかしい、放送禁止用語になっているが、それも計画されたものである。そのような、聖なるもの・人間を超えたものを、非科学的として認めない文化からくる、現在の我々の道徳的崩壊——暴力や無感覚の激増やペドフィリア——も、彼等の仕掛けたものと言ってよい。

こういう話を馬鹿にして聞こうとしない人は、「神仮説の復権」と言われる（無神論科学に対する）有神論科学の運動を、なぜ、必死に妨害しようとする者たちがいるのかを、考えてみるとよい。彼らは、トランプを亡き者にしようとする者たちと、深い所につながっている。ダーウィン進化論が、彼等の歓迎する、思考の「牢獄化」であるのは、思考禁止・活動禁止にやっきになる「ロックダウン」推進派につながっている。どちらも彼ら、神を倒して、自分が神に代わって、人間どもを支配してやろうとする者たちの、アジェンダである。彼らが、自然科学の2大誌である『サイエンス』や『ネイチャー』でさえ、政治的に（神が入ってこないように）操作し始めたと言われるのは、うなずける話である。いずれにしても、我々はノホホンと生きるべきではない。我々が、学者だとかジャーナリストなどと権威者ぶっている間に、彼らは密かに確実に、我々の足元をすくいつつある。

彼らが、「我々の言うことに忠実に従ってさえいるなら、コロナは必ずなくなる」などと言っているのは、「我々の言うことさえ聞いていれば、パンの保証は必ずしてやる」と言った、

ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』の「大審問官」に似ている。いずれにしても、今、世界的に起こっているのは、人間の魂の奪い合い、すなわち神と悪魔の天下分け目の戦いである。



実は、彼等は私を狙っているわけではありません。彼らはあなたを狙っている。  
私は邪魔になるだけだ。